

急性期脳梗塞とその治療

監修

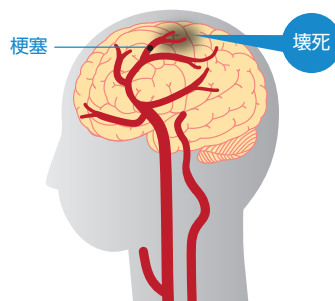
吉村 紳一 先生

兵庫医科大学脳神経外科講座 主任教授
脳卒中センター長



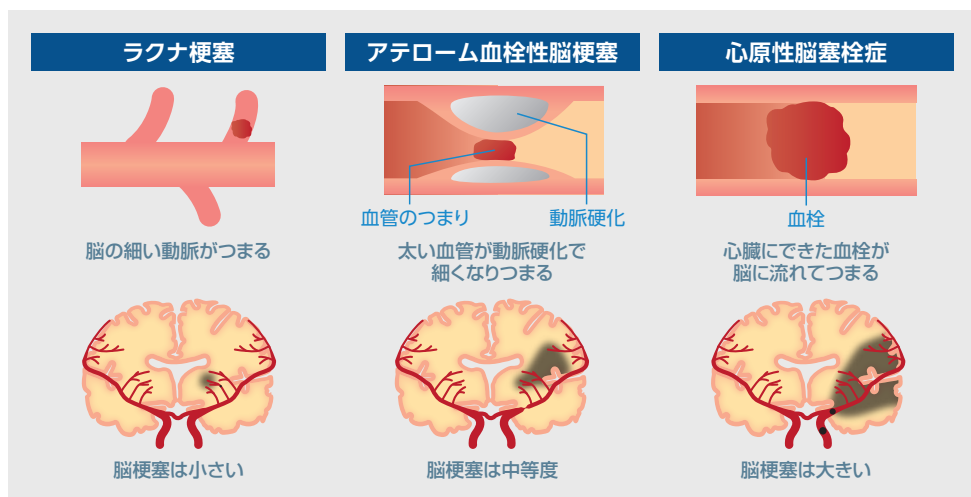
Medtronic

脳梗塞とは

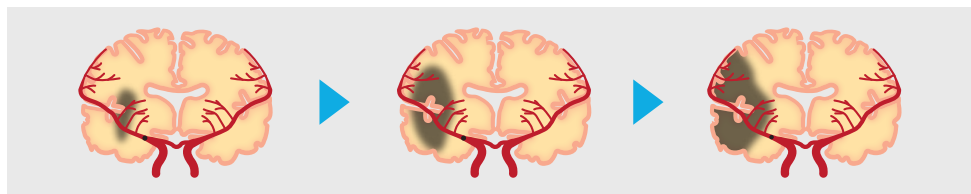


脳梗塞とは脳の血管が突然つまって血流が途絶え、脳の細胞が死んでしまう病気です。早期に適切な治療を受けないと後遺症をきたしたり、死亡してしまう可能性があります。

脳梗塞には血管のつまり方によって、ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症の3種類があります。

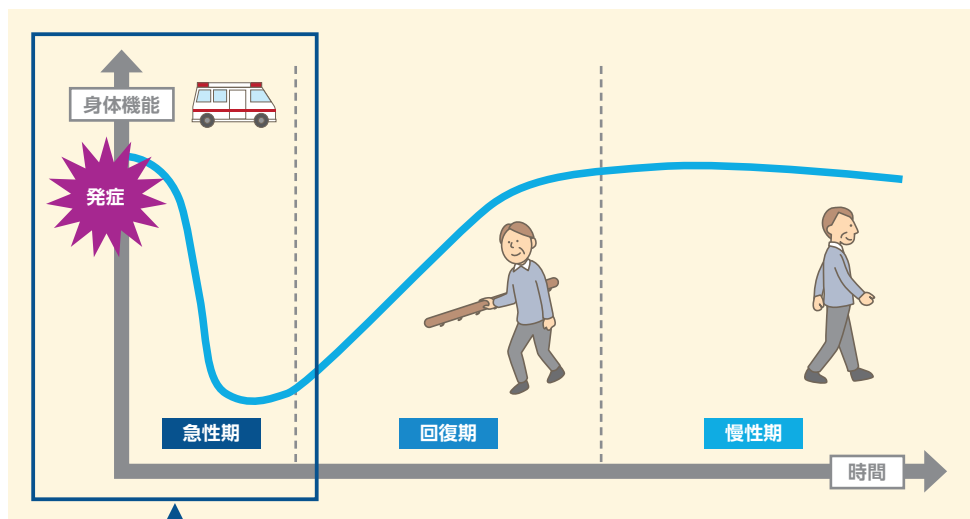


血管がつまってから時間が経つほど、血流不足によって組織が壊死する範囲が広がっていきます。



このため、診断がついたらすぐに、つまった血管を開通させ、血流不足による脳組織の壊死の拡大を防ぐ必要があります。

脳梗塞の発症から8時間まで(場合によってはそれ以降も)は、症状を改善するために血流を改善する治療が行われます。「急性期」が過ぎた「回復期」にはリハビリが重点的に行われ、「慢性期」には主に再発予防が行われます。



急性期

症状が出てから治療を受けるまでの時間が短いほど、回復する可能性が高まります。このため症状に気づいたら、できるだけ早く病院を受診する必要があります。

発症

血栓溶解療法

t-PAという薬を点滴して、血栓を溶かす治療

血管内治療

血管に細い管を入れ、血栓を取り出す治療

発症から4.5時間まで

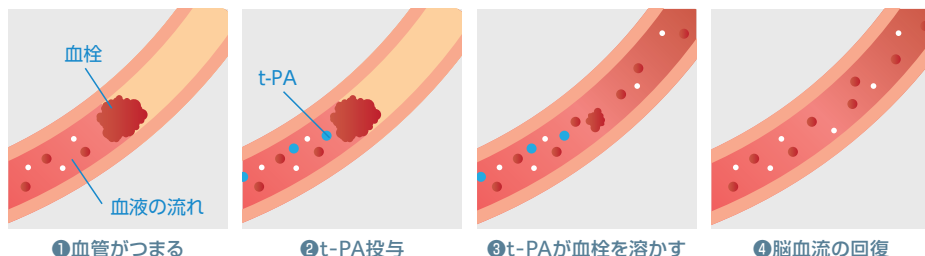
発症から8時間まで(場合によってはそれ以降も)

治療法は、主治医が患者さんの状態を総合的に判断して、ご本人、ご家族との相談の上で決定されます。過去の病歴や内服薬(特に抗凝固薬)などの情報は、必ず主治医にお知らせください。

急性期の治療

1 血栓溶解療法 (t-PA静注療法)

血栓を溶かす薬(t-PA)を静脈から点滴して、血栓を溶かして血流を回復させる治療法です。脳梗塞の発症から4.5時間まで受けることができます。



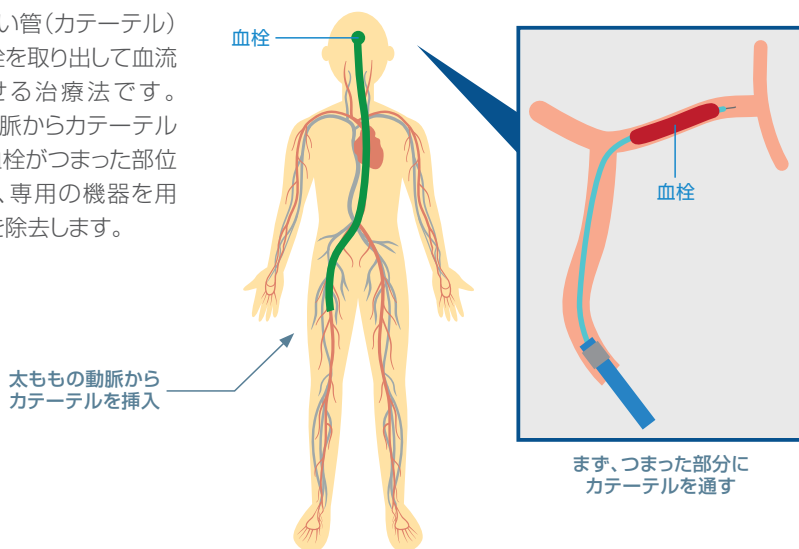
注意点

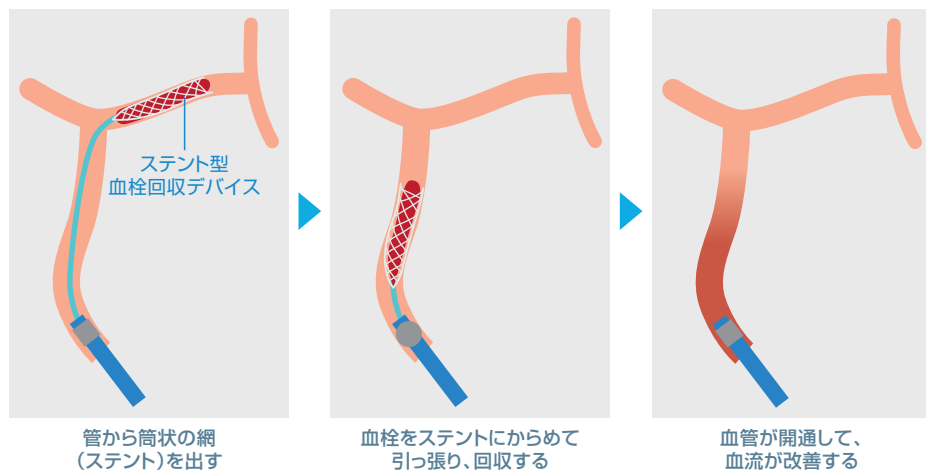
原則、発症から4.5時間以内が適応になります*。
本治療は、副作用として、脳や消化管内に出血を起こすことがあり、出血リスクの高い方には使えません。

*発症時刻が不明な場合、健康な状態が最後に確認された時間を発症時刻として計算します。ただし、MRIなどの画像検査で脳梗塞の部位が不明瞭な場合は、発症から4.5時間以内とみなして、血栓溶解療法を行うこともあります。

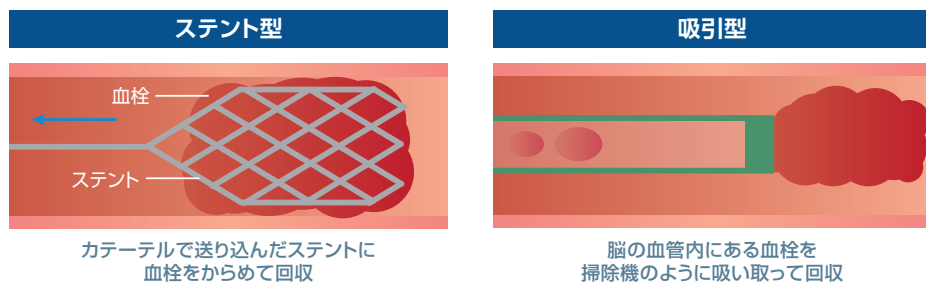
2 血管内治療

血管内に細い管(カテーテル)を入れ、血栓を取り出して血流を回復させる治療法です。太ももの動脈からカテーテルを挿入し、血栓がつまった部位まで誘導し、専用の機器を用いて、血栓を除去します。





血栓を回収するデバイスには、血栓をからめて回収するステント型と、掃除機のように吸い取って回収する吸引型があります。

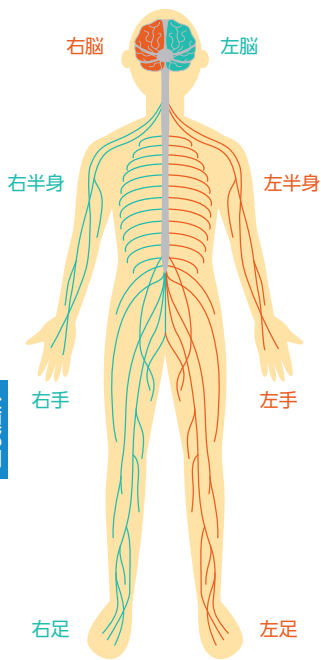
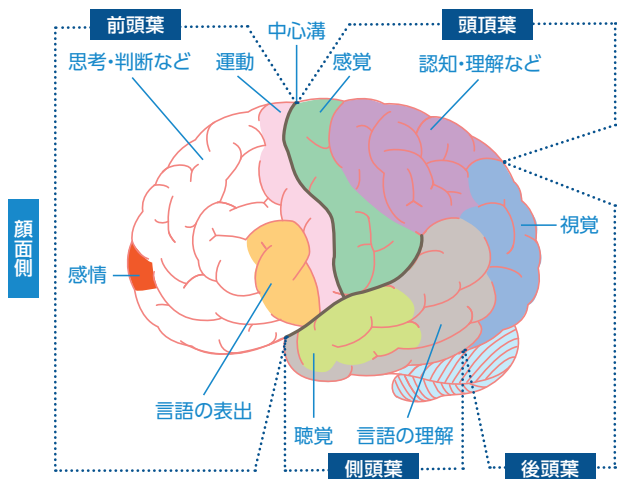


注意点 合併症として、頭蓋内出血や血管損傷などが起こることがあります。

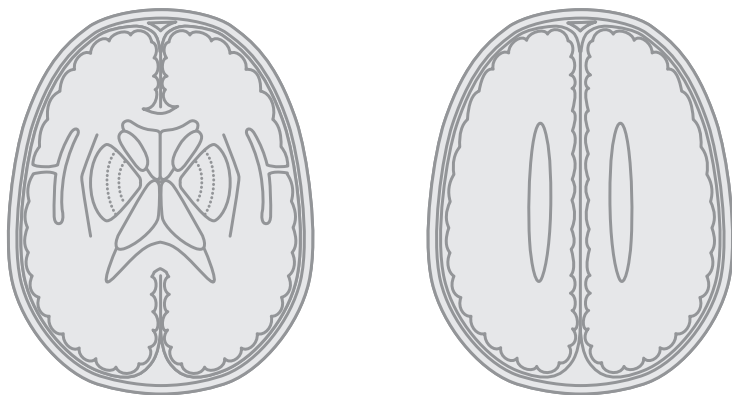
これらの治療法には健康保険が適用されます。
 支払いが高額になった場合は「高額療養費制度」などが使えますので、主治医にご相談ください。

梗塞後に考えられる機能障害

脳は、部位によってつかさどる機能が決まっています。このため、血管がつまった部位によって症状が違います。また、左の脳は右半身を、右の脳は左半身を支配しているので、左の脳の血管がつまると右半身に、右の脳の血管がつまると左半身に障害が現れます。



今回の脳梗塞の部位



主治医に記入してもらいましょう。

退院後について

脳梗塞は再発する可能性が高い病気です。10年間で50%の人が再発するというデータもあります。したがって、再発予防薬を定期的に内服するとともに、高血圧、糖尿病など、脳梗塞の危険因子をしっかりと管理しましょう。

また下記に示すような脳梗塞の前兆に気づいたら、すぐに病院を受診して早期診断、早期治療を心がけましょう。

気をつけたい症状の例

運動障害



体の片側だけが動かせない、力が入らない

感覚障害



体の片側だけがしびれる、感覚が鈍い

構音障害



ろれつが回らない

失語症



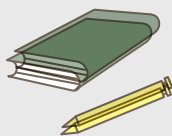
言葉が出てこない、他人の言うことが理解できない

同名半盲



片側の目が急に見えなくなる、視野の片側が欠ける

複視



物が二重に見える

半側空間無視



左右どちらかにある物が、見えているのに認識できない

意識障害



意識がもうろうとする

めまい



ぐるぐる回るとようなめまいが起こる

ふらつき



立てない、ふらふらして上手に歩けない

失行



日用品などの使い方がわからない

これらの症状はすぐに治まることもあります。一旦つまった脳の血管が開通した可能性があり、大きな発作の前触れのこともあります。このため、そのまま放置せず、すぐに病院を受診するようにしましょう。

脳梗塞の再発には生活習慣が大きく関与します

脳梗塞の再発を防ぐにはバランスのとれた食事、定期的な運動習慣、血圧管理や禁煙などが大切です。

薬を飲んでいる場合は正しい服用も重要です。

ご自身の生活が再発リスクを高めていないかどうか、生活習慣を一度見直してみましょう。

また、リハビリを受ける場合は主治医や理学療法士の指示に従って、無理のない範囲で行いましょう。

お問い合わせ先

Medtronic

日本メドトロニック株式会社
ニューロバスキュラー事業部
〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

[medtronic.co.jp](https://www.medtronic.co.jp)

© 2019 Medtronic Japan Co., Ltd.

NV-287
mun-thera-ais
v1.1905.5000.sp